青森県立大間高等学校　進路指導部

NEWS LETTER

6月号

2019.6.05

担当：藤井　佑太

「北通り3町村」の子どもたちへ

大間高校は「地域校」であり、小規模でも存続させると県が定めた学校です。大間高校がなくなれば、大間・風間浦・佐井の3町村の子どもたちが自宅から通える高校がなくなります。そうなると、学ぶ意欲があるにもかかわらず高校進学が難しいという子どもが出てくるかもしれません。大間高校は地元を離れずに学びたいという子どもたちの希望を叶える、3町村唯一の高校です。大間高校の使命は、地域でただ一つの高校として、この地域に根ざし、将来を見据えて子どもたちを確かに成長させることです。

現在の日本は、経済格差や貧困の問題を抱えています。青森県が全国的に見て最低レベルの貧しい県であることも理解しておきましょう。昨年厚労省が発表したデータによると、都道府県別に見た賃金水準（月額）は青森県が全都道府県の中で最下位です。その中でも特に下北郡を含む郡部は工業化に伴う経済成長から取り残され、雇用が生まれづらい状況にあります。また、大学や予備校等もない地域が多く、大学等を目指すことが都市部よりも難しくなっています。

ここ数年は「子どもの貧困」（注1）が話題になっています。しかし、皆さんには、地域唯一の高校・大間高校で熱心に学ぶことで、自分の夢や可能性を広げ、困難な状況を打破してほしいと思います。未来のよりよい生活環境は、親や社会から与えられるものではなく、自分で獲得しなければならないものです。そのために今、大間高校という学習環境を最大限に活用して貪欲に学ぶのです。

現在、私は3年生の大学志望者を対象に、昼休みや部活が終わってからの放課後の時間を使って地理の個別指導を行っています。どの受講生も決して地理がずば抜けて得意とか、大好きというわけではありませんが、全員が大学合格のために意欲を燃やして、日々勉強しています。高総体を終えた今、特に3年生は、大学志望者だけでなく全員が気持ちを切り替えて、勉強や進路活動に力を入れてください。学校は全力を挙げて皆さんを応援します。

今年度の本校の経営方針の重点目標は「地域に信頼され、愛される学校」、「地域とともにある学校」の2つです。この「北通り3町村」と地域の子どもたちである生徒の皆さんを思いやりながら、進路指導部員一同気持ちを引き締めて職務にあたります。

進路指導主任　相内　拓

（注1）「子どもの貧困」への理解を深める本
阿部彩『子どもの貧困ー日本の不公平を考える』（岩波新書）
湯浅誠『「なんとかする」子どもの貧困』（角川新書）

作文・小論文対策講座が行われました

5月14日（火）5，6限、3学年を対象に作文・小論文対策講座を行いました。小論文の書き方の他、自己PRや志望動機の書き方についても理解を深めることができました。講師は（株）学研アソシエの樗木　真喜（おおてき　まき）様でした。豊富な添削指導の経験をベースに、高校生が陥りやすいミスや最近の入試のトレンドなどをお話してくださいました。

今年度に入って2学年・3学年は小論文対策のレッスンを何回か受けていると思います。新テストでは記述式が導入され、高校生には今まで以上にアウトプット力が求められています。また、小論文を書くには知識が必要です。新聞を読んだり、ニュースアプリを活用したりするなどして、社会の動向を知り、問題意識を持つようにしましょう。

卒業生が活躍しています

3月に大間高校を卒業した皆さんの先輩方が各進路先で活躍しています。

先輩方のメッセージを進路資料室前に掲示しています。ぜひ足を運んでください。

あわせてオープンキャンパスの案内も進路指導室周辺の廊下に掲示しています。進学希望者は自ら情報収集を行い、オープンキャンパスに必ず参加した上で学校選びを進めてください。なお、オープンキャンパスに参加する際は旅行願を提出しましょう。

進路部直通☎０１７５-３７-３５９８　スタッフ：相内拓（主任），高橋理恵（2年生），藤井佑太（2年生），村岡需（1年生）